

〔私の体験談〕

「第四胃左方変位経皮簡易手術について」

海老原家畜医院 海老原孝徳

共済組合の診療所にいた若い頃から、従来、第四胃変位を見つけるとすぐ開腹手術を行って来た。その頃は、開腹手術をすることが、産業動物従事者のステータス、素晴らしい事のように思っていたような気がします。もちろん、開腹手術をすると収入面でもプラスになり、農家さんも腹を切って治して貰ったと喜んでくれた。しかし、いつ頃からか、開腹せず、体の外側から固定すれば、それで治るのではないのかと考える様になった。今から22年前から、経皮簡易固定手術を行って来た。最初は、文献があることさえ知らず、ただローリングで第四胃が移動するので、下腹部の位置に固定すれば、治るのではないだろうか？と思い、実践してきた。初期は、キシラジン投与下で牛を倒し仰臥位で足四肢をトラクターのアームに結び、金属音のするところへ套管針を刺し、ガスを抜き排液し、竹ひごとテグスで作った自作のトグル縫合糸で経皮固定を行った。最初は、治るかどうかが不安であったが、意外にも開腹手術並みに治癒したのでビックリした。手術時間も、慣れれば、キシラジン投与から30分ぐらいで終わり、套管針を刺して15分ぐらいで終了できる。開腹手術をするより牛体にダメージがないように思えます。後治療も開腹した時よりも少なく済み、経済的にもかなり安く負担が少なくて済み、農家は喜んでます。最近では、金属音が聞こえれば、横臥位で行うことがほとんどで、ガス抜き第四胃内溶液の排出も容易で手術が楽です。特に注意点としては、左から右に回転し横臥位で手術をして終了すれば、元の位置に回転して起立させる事が重要なような気がします。またローリングして第四胃が動かない場合は、癒着が疑われるので開腹を行うべきであり、右変位の捻転が疑われるもの症状の悪い症例は、最初から開腹をした方がいいです。私も今でも症状、状態の悪い症例は、開腹します。今回、動画を撮影したので、それを3分ほどにまとめたので発表します。